http://www.edu.pref.kagoshima.jp/　　（通巻第１８７６号）

指導資料　音　楽　第48号

鹿児島県総合教育センター
平成28年４月発行

対象校種　幼稚園　小学校　中学校　高等学校　特別支援学校

中学校音楽における箏を使った創作の指導の工夫

和楽器の指導で，箏への苦手意識や指導方法に自信がなく，箏を使うことをちゅうちょしたり，創作の指導法で困っていたりする指導者に対し，箏を使った創作の指導の工夫例を紹介する。

１　音楽科の指導の現状について

音楽科の指導の現状は，依然として，授業内容が歌唱の活動に偏る傾向にあり，児童生徒の創作の活動や実際に和楽器を演奏するなどの伝統音楽に関する学習体験等が必ずしも充実しているとは言い難い状況が見受けられる（詳細は指導資料音楽第 36 号，第 44 号参照）。そこで，箏を使った創作に焦点を当てた指導法について紹介する。

２　箏の調弦法及び奏法について

短期研修講座等の受講者の感想などから，箏の指導で苦手意識をもつ原因の多くは調弦法と奏法が考えられる。

はじめに，箏の最も基本的な調弦法である「平調子」について説明する。

(1)　「平調子」の調弦法について

図１は，「平調子」（一の糸を「ホ音」にした場合）の「音の配列」，「糸の名称」と「柱を立てる位置」を併せて示している。**図１**を参考にして柱の位置を調整していくと容易に調弦ができるようになる。不慣れな場合には大まかに柱の位置を調整した後，チューナーを使って音を合わせると短時間で調弦することが可能となる。「一の糸」と「巾の糸」の柱の立て方は斜めに立てる。

図１　平調子の調弦法と柱の立て方

(2)　奏法について

爪(つめ)は，親指，人さし指，中指にはめ，演奏中に外れるのを防ぐためには，指先を少し湿らせてはめるとよい。次に，基本的な奏法について説明する。親指は手前から向こう側へ，人さし指，中指は向こう側から手前に向かって，指を糸から離さず，爪を押し付けるようにして弾き次の糸に当てて止める。

図２は，日本古謡「さくらさくら」の冒頭部分で，旋律と弾く位置を示してある。１小節目の階名「ラララシ　ララシ」の部分は，糸では「七七八　七七八」と弾き，隣の糸に移って弾くように進む。３小節目の階名「ラシドシ」も「七八九八」と隣の糸に上下に進める。４小節目の「ラシラファ」は，「七」から「八」に移り，その後，「六」まで糸を爪で押さえながら滑らせて弾くと，容易に演奏できる。「さくらさくら」を三味線や尺八などの他の和楽器で演奏して比較すると，箏がはるかに容易に演奏できることが分かる。

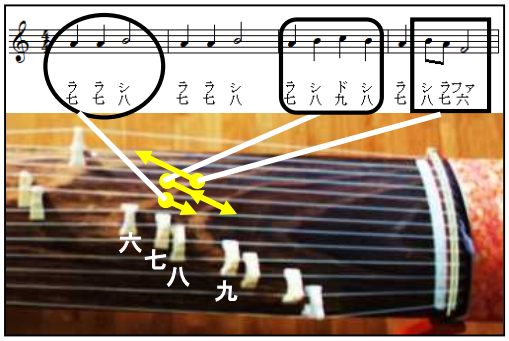

図２　日本古謡「さくらさくら」を弾く糸の位置

３　創作の指導の実際について

次に，鹿児島大学教育学部附属中学校の徳永賢子教諭の取組を基に作成した創作の活動の基本的な指導の流れを示した実践例を紹介する。

①　グループを作る

４人程度のグループを作らせる。

②　テーマを話し合う

グループで，提示されたテーマに基づいて，どのようなイメージの曲をつくるかを話し合わせる。

テーマ

民謡の音階を使って「附中かえる（帰る）の歌」をつくろう。

③　音階，リズムを選びイメージをつくる

写真１の「民謡音階」と「沖縄音階のどちらかを選択させ，選んだ音階を使ってイメージに沿った２小節分の旋律をつくらせる。また，リズムは，**写真２**の４分の４拍子のリズム譜を参考にさせ，つくらせる。

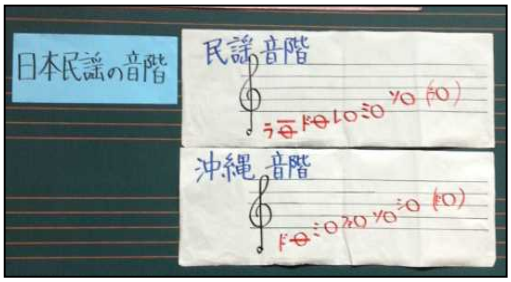

写真１　日本民謡の音階

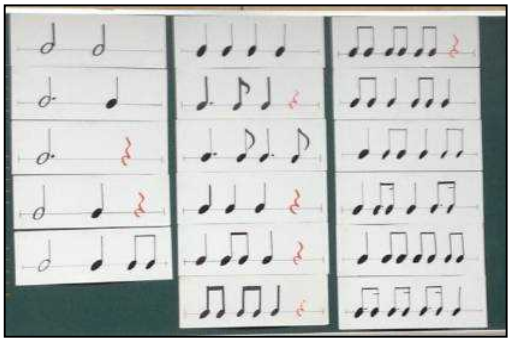

写真２　リズム譜

④　２小節の旋律をつくる（個人）

グループで旋律を工夫できるよう，構成やリズム等の音楽を形づくっている要素に焦点を当てた**図３**の「よりよい旋律づくりのための四つのポイント」を示し，２小節の旋律づくり（**図３参照**）の参考にさせる。

♪旋律づくりのための
四つのポイント♪

□□五つの音をうまく使えている？

□□旋律の順番を入れ替えてみたら？

□□同じリズムや旋律を繰り返してみたら？

□□どこで，続く感じと終わる感じがする？

図３　旋律づくりのための四つのポイント

写真３　２小節の旋律づくり

⑤　旋律を組み合わせる（グループ）

それぞれが創作した２小節をグループで話し合いながら組み合わせ，**写真４**のように４分４拍子の８小節をつくらせる。

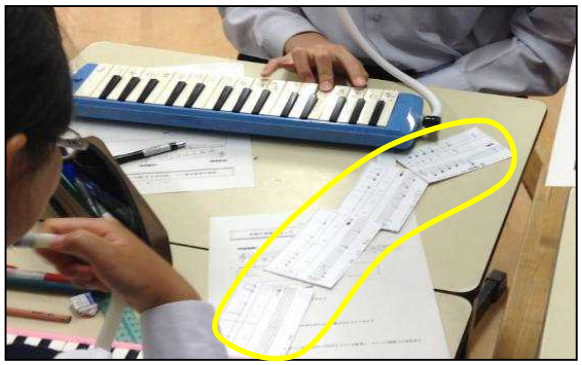

写真４　合わせた８小節の旋律づくり

⑥　互いの曲を発表する

仕上がったグループの曲を互いに発表させる。

※　発表方法は「全員で演奏する」，「担当した２小節をそれぞれが演奏する」，「代表で演奏する」など選択させる。

創作について，中学校学習指導要領解説音楽編では「『音階などの特徴』を手掛かりにして『旋律をつくる』」と示されている。音階は７音の長音階や短音階などをはじめ，他にも多数あることから紹介した事例の民謡音階などのように，使用する音を限定することにより，旋律づくりが容易となり児童生徒につくる楽しさや喜びを実感させることにつながる。

４　箏を使った創作の活動の進め方について

最後に，前項の基本的な流れを基にして箏を使った創作の活動の進め方について紹介する。

箏を使った創作については，「平調子」の音列に含まれる「都節（みやこぶし）音階」を使って旋律づくりを行う。「都節音階」は，**図４**の白線の枠で囲んでいるように，奏者側に近い位置で音が配列されており，範囲が狭く，大変弾きやすい位置にある。

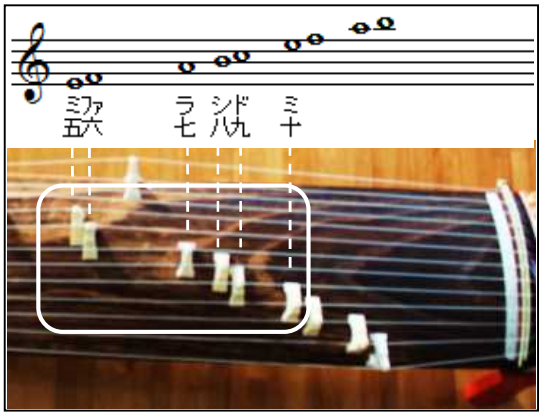

図４　都節音階

また，「都節音階」は，音階にある音をばらばらに弾いたとしても箏の音色も伴って日本古謡「さくらさくら」のような雰囲気を感じさせる旋律になるため，児童生徒に旋律づくりの楽しさや喜びを実感させることができる。留意事項としては，実際に箏を弾かせ，演奏が可能かどうかを確認させながら旋律をつくらせることが大切である。次ページに，その授業展開例を示す。

箏を使った授業展開例（第１学年　題材「日本の音階を使って旋律をつくろう」）

時間	主な学習活動	形態	指導上の留意点
7分	1　民謡音階や沖縄音階を使った旋律づくりの学習内容を振り返る。 2　構成音の違いによる雰囲気の違いを感じ取り，日本特有の音階を理解する。	一斉	○　民謡音階，沖縄音階の特徴を振り返らせる。 ○　沖縄音階を都節音階に変えて「教師の作成した曲」を演奏し，曲の雰囲気は構成音の違いによるものであることに気付かせる。 ○　都節音階を示す。 ○　音階をリコーダーで確認させ，特徴を体感させる。
3分	3　本時の目標と学習の流れを把握する。 平調子の「都節音階」を使って「日本料理店で流れる曲」をつくろう	一斉	○　本時の目標と学習の流れを理解させる。 ・　本時は，平調子の「都節音階」を使って２小節分の旋律をつくり，グループで組み合わせて曲にまとめる活動を行うことを理解させる。
30分	4　提示されたテーマに基づいて，グループでどのようなイメージの曲をつくるか話し合う。 5　音階を使ってイメージに沿った２小節分の旋律をつくる。 6　それぞれが創作した２小節をグループで話し合いながら組み合わせ，４分の４拍子８小節の旋律をつくる。	グループ 個人 グループ	○　記譜に際しては，糸の名称を記入させる。 記譜に苦手意識をもつ生徒も多いことを考慮し，五線紙に記譜させることにこだわらないようにする。 ○　４分の４拍子のリズム譜を参考にさせる。 ○　各自の箏の技能を把握した上で，音の跳躍やリズムに留意させ，旋律をつくらせる。 ○　グループで旋律を工夫できるよう，構成やリズム等の音楽を形づくっている要素に焦点を当てた「旋律づくりのための四つのポイント」を示す。
10分	7　曲が仕上がったグループの発表を聴く。 8　次時の予告を聞く。	一斉	○　練習時間が十分でないグループは代表の演奏や，部分的に演奏をするなど，発表形態に配慮する。 ○　次時は，つくった旋律に更に表現の工夫を加え，発表し合うことを予告する。

創作の活動は，音と音とを連ねて短い旋律をつくったり，それを基にして，リズムを変えたりするなどして，試行錯誤しながら音楽をつくっていく活動であるため，歌唱や器楽の分野にも増して，思考力・判断力・表現力を育成するために有効な学習活動である。

特に，箏を使うことで児童生徒に我が国の伝統音楽のよさを味わわせる機会にもなる。本稿では，箏を使った基本的な創作の指導の進め方等について述べてきた。これらを基に，更なる指導法の工夫に努めていただきたい。

―引用参考文献―

○　文部科学省『中学校学習指導要領解説音楽編』平成 20 年，教育芸術社

○　文部科学省『高等学校学習指導要領芸術編（音楽）』平成 20 年，教育芸術社

○　鹿児島大学附属中学校『公開授業指導案』平成 26 年，鹿児島大学教育学部附属中学校

○　鹿児島県総合教育センター『指導資料音楽第 1590 号(音楽第 36 号)』平成 20 年 10 月

○　鹿児島県総合教育センター『指導資料音楽第 1764 号(音楽第 44 号)』平成 25 年 4 月

（教職研修課）